

# 富山県内の道路整備箇所及び状況

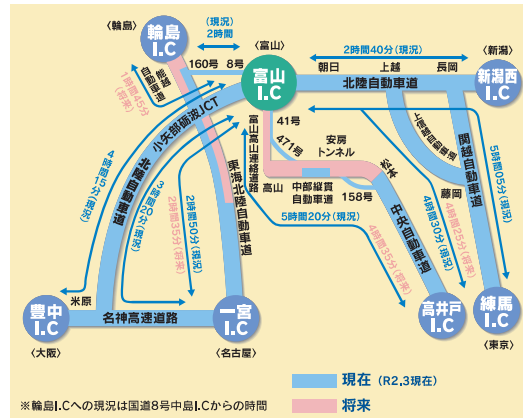
2019年3月策定  
2026年1月改定  
富 山 県

## 高速道路網の整備

富山県内の高規格幹線道路網は、日本海側を縦貫する北陸自動車道、中京圏と結ぶ東海北陸自動車道、能登半島に伸びる能越自動車道で構成され、小矢部砺波JCTで相互に結ばれており、平成27年2月に能越自動車道の灘浦IC～県境間が開通したことにより、全区間が開通し、概成しました。



北陸五道



富山からの所要時間 (インターチェンジ間の所要時間)

### ◆北陸自動車道(延長約487km)

新潟県新潟市から滋賀県米原市までの全区間が完成4車線で供用されています。

富山県内では、入善PA及び流杉PAにおけるスマートICに加え、平成27年3月に高岡砺波スマートIC、令和2年12月に上市スマートICが供用され、利便性の向上が図られています。



入善スマートIC



流杉スマートIC



高岡砺波スマートIC



上市スマートIC

### ◆東海北陸自動車道(延長約185km)

東海北陸自動車道は、愛知県一宮JCTを起点として富山県小矢部砺波JCTに至る延長185kmの高速道路であり、平成20年7月に全線開通し、令和元年度までに岐阜県内の飛騨清見ICまでの4車線化が完了しています。

飛騨清見IC～小矢部砺波JCTにおいて、H28年度から順次区間を区切って4車線化が進められています。現在、県内すべての区間が4車線で事業化されており、これまでに延長10kmの4車線化が完成し、安全性やネットワーク信頼性の向上が図られています。

こうした中、令和6年3月には、4車線化の未事業化区間として残っていた岐阜県の飛騨清見IC～白川郷IC間のうち、延長4.3kmが事業化され、飛騨トンネルを含む、延長11.9kmが事業実施環境を整えるため、調査に着手する準備調査候補箇所として選定されました。

事業中区間の整備促進や、飛騨トンネルを含む区間の早期事業化により、一日も早い全線4車線化が強く望まれます。



4車線化完成区間(南砺スマートIC～小矢部砺波JCT)  
写真提供: 中日本高速道路(株)富山高速道路路事務所



4車線化完成区間(五箇山IC～城端SIC)  
写真提供: 中日本高速道路(株)富山高速道路路事務所

また、平成27年3月には南砺スマートIC、令和5年12月には城端スマートICが供用され、利便性の向上が図られています。

### ◆能越自動車道(延長約117km)

平成27年2月の灘浦IC～石川県の七尾IC間の開通により、県内区間が全て開通し、平成27年11月に能越県境PAが、平成28年3月に氷見南ICが供用を開始しています。有料区間である小矢部砺波JCT～高岡IC間においては、平成30年6月20日に福岡本線料金所を撤去し、小矢部東本線料金所で一括して料金徴収を行う全区間均一料金に変更されています。この料金体系の変更により、一旦停止と支払い手間が省けることから、利便性が向上しました。



城端スマートIC  
写真提供: 中日本高速道路(株)富山高速道路路事務所



福岡本線料金所撤去後



## 地域の活性化を創出する道づくり

### ●高規格道路の整備

#### ◆高規格道路とは

人流・物流の円滑化や活性化によって我が国の経済活動を支えるとともに、激甚化、頻発化、広域化する災害からの迅速な復旧・復興を図るため、主要な都市や重要な空港・港湾を連絡するなど、高速自動車国道を含め、これと一体となって機能する、もしくはこれらを補完して機能する広域的な道路ネットワークを構成する道路です。

また、地域の実情や将来像(概ね20～30年後)に照らした事業の重要性・緊急性や、地域の活性化や大都市圏の機能向上等の施策との関連性が高く、十分な効果が期待できる道路で、求められるサービス速度が概ね60km/h以上の道路です。

高規格道路網図



高規格道路(地域高規格道路)の整備状況

路線名	起点	終点	延長	整備状況
富山高山連絡道路	富山市猪谷	富山市片掛	1.6km	整備中(平成9年度事業着手)
	富山市庵谷	富山市楡原	3.0km	平成22年11月 供用開始
	富山市楡原	富山市栗山	12.0km	整備中(平成26年度事業着手)
高岡環状道路	高岡市上伏間江	高岡市佐野	2.6km	平成15年3月暫定供用開始(副道) 整備中(平成27年度事業着手)(本線)
	高岡市佐野	高岡市六家	2.6km	平成26年11月 暫定供用開始(副道)
	高岡市石塚	高岡市六家	1.3km	整備中(令和元年度事業着手)
富山高岡連絡道路	高岡市石瀬	高岡市野村	1.0km	平成17年12月 供用開始
	射水市沖塚原	射水市川口	1.1km	平成28年3月 供用開始
富山外郭環状道路	富山市小西	富山市栗島町	2.9km	整備中(平成21年度事業着手)
	富山市中島	射水市白石	7.4km	整備中(令和3年度事業着手)

凡 例	
高規格道路 (高速道路)	供 用 中
	整 備 中
高規格道路 (地域高規格道路)	供 用 中
	整 備 中
主な一般国道	計画路線
	主 線



### ●県道高岡環状線(上伏間江～佐野)の高架化

平成27年度に南郷大橋から国道156号までの区間において、本線の高架化(暫定2車線)に着手し、令和7年3月に南郷大橋から二塚高架橋(JR城端線)までの区間の部分供用を行いました。

この整備により、交差点の渋滞解消、新高岡駅～能越自動車道高岡IC間のアクセス向上が期待されます。



### ●幹線道路網の整備

新幹線駅・港湾など交通・物流拠点や、主要観光地へのアクセス道路をはじめ、市町村間を結ぶ幹線道路など、体系的な整備を推進します。



①県道富山立山公園線 富立大橋4車線化開通



②国道471号 利賀バイパス整備状況  
(写真提供:北陸地方整備局利賀ダム工事事務所)



③県道宇奈月大沢野線開通(魚津市袋～石垣新)



④県道千里八尾線 千里バイパス開通

# 地域の個性を活かし、多様なニーズに応える道づくり

## ●とやまのみちフレッシュアップ事業

道路を利用する県民の皆さんからのご提案やご意見を取り入れながら、今ある道に「ひと工夫」加え、「とやまのみち」を、より安全で使いやすく、快適なものとすることを目指しています。

歩行空間の整備例

県道本町高木出線



既存の道路空間を有効に活用し、歩行空間の確保

渋滞対策の整備例

国道359号



幅員構成見直しによる右折レーンの設置

## ●道路愛護ボランティア制度

県管理道路において、歩道、路肩、植樹樹などの清掃、草むしり、水やり等のボランティア活動を継続的・積極的に行う団体を支援する制度で、道路沿線の美化推進を図るとともに、地域社会の一層の活性化を目指すものです。

富山県では、こうしたボランティア団体を「道路愛護ボランティア」として登録し、支援しています。



清掃・美化  
(富山大橋をきれいにする会)



緑化  
(花と緑の銀行松沢支店(野ざくの会))

## ●通学路及び未就学児の集団移動経路の交通安全の確保

登下校中の児童や散歩中の園児等が死傷する事故が全国で相次いだことを受けて、本県では道路管理者、教育委員会、学校、警察、地域住民等が連携して合同点検を行い、その結果を踏まえ、現地の状況に応じた対策を実施し、交通安全の確保に継続的に取り組んでいます。

対策実施例【立山町立高野小学校通学路】 県道日中五百石線



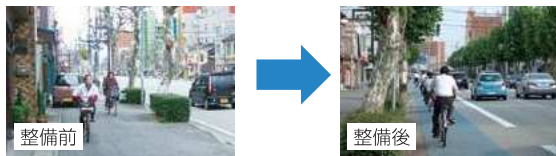
・横断歩道の手前をカラー舗装化し、ドライバーの注意を喚起する。  
・歩道の転落防止柵の設置高さを1.1mに更新する。

## ●自転車通行環境の整備

近年、自転車利用者の増加に伴い、自転車に関係する交通事故、特に歩行者と自転車が接触する事故が増加しています。

平成31年3月に「富山県自転車活用推進計画」を策定しており、歩行者、自転車及び自動車が適切に分離された自転車通行空間の計画的な整備と保全に取り組むこととしています。

県道富山港線における  
自転車専用通行帯の整備例



## ●サイクリングコースの整備

県内各地にある景色や観光施設を巡りながら、サイクリングを楽しんでもらえるようにコースの整備を行っています。

令和3年には、日本を代表し世界に誇りうるルートとして国が指定し、国内外にPRされるナショナルサイクルルートに「富山湾岸サイクリングコース」が指定されました。

### ■富山湾岸サイクリングコース

「世界で最も美しい湾クラブ」に加盟した富山湾を眺めながら湾岸沿いに富山県を横断するコース

### ■田園サイクリングコース

国宝瑞龍寺をはじめとした富山県の歴史と文化を感じながら田園風景の中を駆け抜けるコース

### ■湾岸・田園連絡サイクリングコース

富山県の中央部を南北に走り2つのコースを結ぶコース



県内サイクリングコース

■ 富山湾岸サイクリングコース  
■ 田園サイクリングコース  
■ 湾岸・田園連絡サイクリングコース



矢羽型路面標示



距離標

案内標識

## ●無電柱化の推進

「防災」「安全・快適」「景観・観光」の観点から、電線類を道路下に収容することや、裏通り・軒下から配線すること等による無電柱化を推進します。



主要地方道高岡氷見線

## ●雪と汗のひとかき運動

県民との協働による除排雪を推進する一環として、主要な交差点やバス停等の歩道に除雪用スコップを置き、地域住民や通行する皆さんに、信号の待ち時間等を利用して、雪だまりなどをひとかき除雪してもらうものです。





# 安全で安心な暮らしを支える道づくり

## ●道路施設の老朽化対策

県が管理する橋梁などの道路施設は、今後、急速に老朽化が進んでいくことから、効率的・効果的な老朽化対策を行う必要があります。

このため、県では、橋梁・トンネルなどの重要な道路施設を5年に1回の頻度で点検し、点検結果に基づく計画的な補修や更新に取り組んでいます。

### ■橋梁



鉄筋露出の発生状況

### ■トンネル



ひび割れ・漏水状況

### ■ロック・スノーシェッド



亀裂の発生状況

### ■照明灯・標識



腐食の発生状況

### ■舗装



クラック状況

### ■消雪施設



漏水の発生状況

### ■横断歩道橋



腐食の発生状況

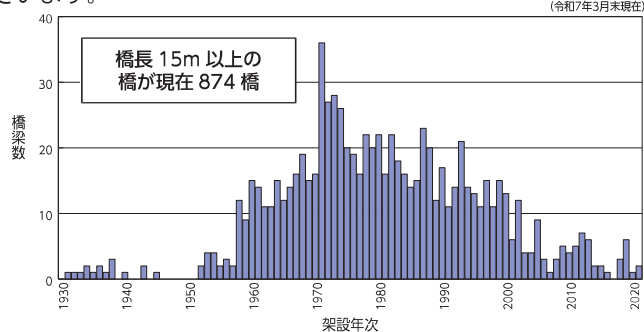
## ●橋梁の計画的な維持管理の推進

令和7年3月末現在、県が管理する橋長15m以上の道路橋は874橋あり、このうち建設後50年を経過する橋梁は395橋で全体の約45%を占めています。これが30年後には約91%になり、劣化した橋梁が急増するおそれがあります。

このことから、平成23年2月に富山県橋梁長寿命化修繕計画を策定(令和7年3月改定)し、計画的な維持管理を推進しています。



県道富山魚津線 今川橋架替事業



架設後 50 年を経過した橋梁数

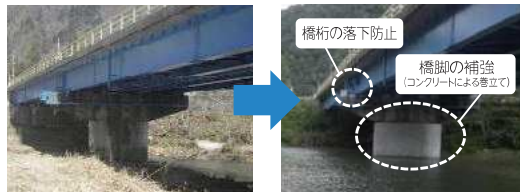
395橋  
(R7.3末現在)

30年後

795橋

## ●橋梁の耐震化の推進

大規模地震等の発生により、橋梁が大きな損傷を受けた場合、通行止め等により県民生活に多大な影響を与えることとなります。こうしたことを防ぎ、安全で信頼性の高い道路ネットワークを確保するため、橋脚の補強など、橋梁の耐震化を推進しています。



国道156号

## ●落石・崩壊に対する防災施設の整備

富山県では急峻で脆弱な地形・地質特性から、落石・崩壊等の災害が発生しています。このような災害から、安全な道路交通、県民の生命や財産を未然に守るため、防災施設の整備に取り組んでいます。



斜面崩壊による被災



法枠吹付工の整備

## ●冬期の安全で円滑な道路交通の確保

降積雪時においても住民生活や産業活動に支障がないよう、国、県、市町村等と連携し、除排雪の徹底を図っています。車道ばかりではなく、歩行者の多い通学路や主要な駅等に通じる歩道においても、歩行空間を確保するための除雪に取り組んでいます。

また、堆雪帯を備えた道路や雪崩対策施設などの整備、消融雪施設の更新にも取り組んでいます。



除排雪の実施



消雪施設の更新



雪崩対策施設

### ■冬期道路情報提供の充実

ドライバーの安全運転の支援を目的として、路面監視カメラの画像や降積雪量、路面温度などの情報をインターネット等で提供しています。(降積雪量や路面温度以外の情報は、令和4年度から通年公開)

また、AIを活用した路面の積雪、車両滞留状況の提供やSNSを利用した道路情報の発信にも取り組んでいます。



検索

PCサイト

アプリ「雪みち富山」

